

授業科目名	必修・選択別	単位数	対象学年	学期	曜・限	担当教員
臨床薬理学Ⅱ	必修	1	4	2		上村尚人・甲斐恵・和久田浩一・中村優佑・関口愛

【科目名の英文】

Clinical Pharmacology and Therapeutics II

【授業の概要・到達目標】

診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、有害事象、薬物投与計画）について学ぶ。また、臨床現場において、根拠に基づいた医療（Evidence-Based Medicine, EBM）に基づいた適切な医学知見を得、その知識を活用し治療を決定する方法を身に付ける。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 薬物動態・薬力学について概説できる。	○					
2. 薬物動態学的相互作用、薬力学的相互作用について例を挙げて説明できる。	○					
3. 主な薬物の有害事象を概説できる。	○					
4. 各臓器系統に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象などを説明できる。	○					
5. 年齢や臓器障害、妊娠などに応じて薬剤投与の注意点を説明できる。	○					
6. 薬理動態・薬物作用の個体差を説明できる。	○					
7. 心理社会的背景を含めた全人的医療について説明できる。	○	○		○		
8. 医療品開発において現状と今後求められる医薬品について概説できる。	○				○	
9. EBMの5つのステップを列挙でき、PICOを用いた問題の定式化ができる。	○		○			
10. データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができ、得られた情報の批判的吟味ができる。	○		○			○

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	臨床薬理 1	治療学・臨床薬理学総論	臨床薬理・上村	講義
2	臨床薬理 2	薬物相互作用	臨床薬理・和久田	講義
3	臨床薬理 3	薬物有害反応	臨床薬理・中村	講義
4	臨床薬理 4	各病態における薬物動態	臨床薬理・大谷(特任)	講義
5	臨床薬理 5	臨床薬物動態学	臨床薬理・甲斐	講義
6	臨床薬理 6	ベッドサイドの臨床薬理学 ①	笠岡第一病院・原田	講義
7	臨床薬理 7	ベッドサイドの臨床薬理学 ②	笠岡第一病院・原田	講義
8	臨床薬理 8	薬と患者心理	臨床薬理・関口	講義
9	臨床薬理 9	こころと身体の結びつき	九州大学・須藤	講義
10	臨床薬理 10	心身医学的治療	九州大学・須藤	講義
11	臨床薬理 11	医薬品開発と臨床試験	臨床薬理・上村	講義
12, 13	臨床薬理 12	創薬におけるトランスレーショナルリサーチ	臨床薬理・長袋(特任)	講義
14, 15, 16	臨床薬理 13	EBM 実習	武蔵国分寺公園クリニック・名郷	実習

【アクティブラーニングの内容】

一般的な講義に加え、実習の講義を取り入れ自分達で考える講義スタイルを取り入れている。

【その他の工夫】

非常勤講師の講義を増やし多角的な視点で臨床薬理を学ぶよう設定した。

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修 教科書を用い講義の内容を事前に学習しておく (15h)。

事後学修	配布資料や参考文献などの情報を整理し講義ノートで復習する (15h)。	
【教科書】		
臨床薬理学 第4版 (日本臨床薬理学会) 医学書院 2017年 ISBN 978-4-260-02873-8 ハリソン内科学 第5版 (原書第19版) メディカルサイエンスインターナショナル 2017年 ISBN 978-4-89592-873-1		
【参考書】		
ハーバード大学講義テキスト 臨床薬理学 原書3版 (渡邊裕司 監訳) 丸善出版 2015年 ISBN 978-4-621-08916-3		
【成績評価方法及び評価の割合】		
上記のすべての「具体的な到達目標」について、本試験またはレポートで評価する。なお、本試験 (80%) およびレポート (20%) の合計得点が6割を超えたものを合格とする。ただし、出席回数が3分の2に満たない場合は、本試験の受験を認めない。		
【注意事項】		
【備考】		
リンク		
	URL	
教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	上村尚人 (医師)・甲斐恵 (医師)・和久田浩一 (薬剤師)・中村優佑 (医師)・関口愛 (臨床心理士)	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者	医師、創薬ベンチャー代表取締役 CEO	
実務経験をいかした教育内容	医師、薬剤師、臨床心理士、創薬ベンチャー代表取締役 CEO が、それぞれの専門分野から薬や治療について講義を行う。よって学生は多角的な視点から薬や治療について学ぶことができる。	
授業形態	対面授業	